

一花×四葉

yami_yami

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

一花と四葉の百合ものです。

目次

一花×四葉①	1
一花×四葉②	7

一花×四葉①

四葉「お風呂上がったよおー」

一花「じゃあ次わたし入るねー」

ガチャツ

一花「ふふんー♪」ヌギヌギ

一花「洗濯もの溜まってきているから後で回しておかないとっ… て、これ四葉の脱ぎ
たてパンツ…」ゴクリ

一花「んはあ… すごいエッチな匂い…」クンクン

一花「あの子の健康的な汗とおまたからの液体想像するだけで濡れちゃう…」ジユン
四葉「一花ー？髪乾かしたいから入ってもいいー？」

一花「?!… ついいよー！」

ガチャツ

四葉「ん？一花どうしたの？顔赤いよ？」

一花「うん、なんでもないよっ」

四葉「？」

私、中野一花はどうやらレズのようなのです。特に四葉に対してすごい興奮してしまいます。

昔はみんなおんなじ顔、おんなじヘアスタイルで微塵もそんな気持ちは起きなかったけど、髪型も髪色も変わっていくうちにみんな別人のようになっていってから、みんなをエツチな目線で見てしまいます。

特に四葉は子供っぽいけど、運動後の汗の匂いとかパンツの蒸れてる匂いがドストライクに私の好みです。

チャポンツ

一花「はぁー、私最低だよね…。よりによって姉妹の四葉にこんな興奮するなんて…。」

一花「表向きは風太郎くんが好きってことでカモフラージュしてるけど…。別になんも思っていないんだよね…。」

一花「はぁ…。四葉のおまんこ舐めて見たいなあ」

翌朝

一花「今日土曜日かぁー」

五月「あれ、四葉はどこ行っただのですか？」

二乃「あの子なら走ってくるって」

五月「朝から元気ですね…。確か今日は家庭教師の日でしたよね」

二乃「ええ、早くふー君に会いたいわあ」

ガチャンっ

四葉「ただいまー」

二乃「おかえり…。つてあんた汗ダクダクじゃない！早くお風呂入ってきなさい！」

四葉「うん…。今日は特に暑いねえー」ヌギヌギ

二乃「ここで脱ぐのやめなさいよ…。」

一花「(四葉のおっぱいの谷間あんな汗で濡れてる…。)」

五月「一花どうかしましたか？顔が赤いですよ？」

四葉「あ、一花昨日も顔赤かったんだよー？熱でもあるんじゃない？」

一花「だ、大丈夫だから…。あはは」

この気持ちは多分四葉のことが好きとかとかじゃないのです。

四葉を使って自分の性欲を満たしたいという気持ち、四葉をめちやくちやにしたいという欲望なのです。

一花「(はあ、わたしどうしてこうなっちゃったんだろ…。)」

15分後

四葉「ふわあー、さっぱりしたー」

二乃「早く朝ごはん食べちゃいなさい」

四葉「うわー、今日も美味しそうだねー!」

一花「あー、わたしもちよつと朝シャンしようかなー」

五月「珍しいですね」

一花「うん、なんか昨日寝てるとき汗かいたみたみたいで」

当然私の目的は四葉の使用済みパンツです。

どうにかしてこれを自分の部屋に持って帰りたいものですが…

ガチャっ

一花「相変わらず今日もお子様パンツだね…」

一花「うわあ、お股の部分すっごい汗で濡れてる… はあ… すっごい匂いきついけ

ど最高っく」

一花「ちよつと汚れてるけど、もしかして昨日このパンツ履きながらオナニーとかしたのかな…」

一花「四葉のあそこ…」

一花「はあ… すーっ… はあ… すごい匂い…」

一花「あ、私がかこれ履いていけばバレずに部屋まで持ってける…」

ガチャっ

一花「はあ、さっぱりしたー、そういえば今日ふーたろう君何時に来るんだっけ？」

四葉「お昼食べてからくるっていつつなかつた？」

一花「そつかあ、じゃあ私はもう一眠りしよつかない」

四葉「私も走ったら眠くなっちゃった…」

一花「いま、私四葉の使用済みパンツ履いてる… そう思うだけですごい濡れちゃつてる…」

五月「もう、二度寝はダメですよ？」

四葉「私たちまだ高校生だから大丈夫だよ！」

一花「じゃあ私は部屋に戻るねー」

一歩ずつ部屋に近づくと、四葉のパンツでオナニーできると胸がトクトクと高鳴ってきます。

ガチャッ

一花「うわあ… 四葉のパンツ私ので濡らしちゃった… でもさつきより匂いすごいっ…」クンクン

一花「四葉のパンツ私のまんこにこすりつけたら… んっ… きもちいい」クチュクチュ

一花「ついでに持ってきた四葉の昨日のパンツも匂い臭ぎながら…」クンクン

一花「おしつこの匂いとかしてすっごいいいり… 幸せえ〜」

一花「あ、こつちのパンツは被つちやお… あはは、側から見たらど変態だね…」

一花「でも指止まんないっ… 四葉のパンツが私ので汚れちやつてる…」クチュク

チュ

一花「四葉のおまんこの匂いっ… はあっ… イキそうっ… あっ… イクっっ」ビク

ビク

一花「はあはあ… なんだからすごい罪悪感…」

一花「これあとで洗濯機入れとかなきゃ…」

一花×四葉②

四葉のパンツでオナニーしてからというものの、四葉の顔をまともに見ることができなくなりました。

しかし、四葉の秘部を見てみたい、触ってみたい、重ねてみたいという思いは強く加速してしまい、とうとう行動にうつしてしまいました。

2日後の夜

a. m 1時

ガチャっ

一花「みんな寝てるよね…。」ソーツ

一花「四葉も寝てるよね…。」

カチャリ

バタンっ

一花「起きないようにそーつと」

四葉「んんっ…。」

一花「?!」

四葉「上杉さんこれ以上勉強はできません…」

一花「あはは、勉強のことどうなされてるね…」

一花「あ、四葉ホットパンツ履いてる…てことはパンツ履いてないよね」

一花「ちよつとずらしてみよ…わあ、四葉パイパンにしてるんだ…流石に天

然物じゃないよね…」

一花「匂い嗅いじやおつ…すーっ…はあ、ほのかなおしっこの匂い…」

四葉「むにやむにや」

一花「…舐めてもいいかな…ちゆるっ…」

四葉「んー…」

一花「びっくりした…すごいエツチな味…」

一花「ぺろぺろっちゆるっ…はあ、だんだん濡れてきたっ…四葉の愛液美味しっ」

四葉「んっ…んん…んん??」

一花「すっごい匂いっ…はあっ…」

四葉「キヤツ!!」

一花「?!よ、四葉?!」

四葉「い、一花何やってるの…?!」

一花「シー!」

四葉「むごっむむ」

一花「四葉がエツチな体してるから襲いたくなっちゃったよお姉さんっ♡」

四葉「ぷはあっ……だ、だめだよこんなこと！私たち女の子同士……」

一花「エツチなことだけだったら大丈夫っ……ちゆるるるっ」

四葉「んあっ……一花やめてっ」

一花「はあっ……四葉のおまんこ美味しい……」

四葉「こ、こんなの……間違ってるよ……あんっ……」

一花「でも体は正直だよ？こんなにヌルヌル液出しちゃって」

四葉「だめっ……一花そこ舐めないで……やんっ」

一花「ここ？クリすごいおっきい……」

四葉「やめてっ……だめだよ……んっ……やだっ……」

一花「ヒクヒクしてるよおー？四葉もうイッチちやいそう？」

四葉「一花やめてっ……ほんとに出ちやうからっ……あっ！」プシヤアア

一花「やっ、四葉のおしっこっ……」ゴクゴク

四葉「やめて……飲まないでえ……」

一花「すっごい美味しいっ……ぷはあっ……」

四葉「うう……もうやだ……」

一花「ほら一花お姉さんの顔にまたがってごらんっ」

四葉「やだっ！こんな格好恥ずかしいよお」

一花「はあく、四葉のおまんこがこんな目の前に… じゅるるるるる！」

四葉「やんっ！… 吸い取らないで！… もういやっ」ビクビク

一花「はあくんっ、何もしてないのにタラタラ垂れてきてるっ… しょっぱくて美味
しい♡」

四葉「一花やめよ… こんなのダメだよ…」

一花「こんなに濡らしてるのに何言ってるの… ちゅるっ」

四葉「はんっ… やあ…」

一花「あれー？四葉腰動かしちゃって… もっとしてほしい？」

四葉「ちがっ…！」

一花「じゅるっ… ちゅぷっ… はあ… どんどん濃い味になってるっ♡」

四葉「やつ… あんっ…」

一花「ちゅびっ… じゅるるるるっ」

四葉「ツツ！」ビクビク

一花「またイツちやつた？」

四葉「はあはあ…」コクリ

一花「はい、今度は足広げて」

四葉「こ、こう……？」

一花「はいいい子……そんないい子には具合合わせプレゼントしちゃうよっ」クチュ

四葉「やっ……一花のと擦れあってる……」

一花「はあく、四葉のトロトロおまんこが私のおまんこに……これたまんないっ♡」

四葉「一花あ……こんなのダメだよお……」

一花「んあっ……見て四葉……こんなに四葉のヌルヌル液が私についての……」ク

チャツクチャツ

四葉「だめっ……」

一花「ほらっ……クリ同士擦り付けるのどう？」

四葉「うう……やだっ……」

一花「ビクビクしちやっ……激しくするねー」グチャグチャツグチャツ！

四葉「んあっ！」ビクビク

一花「四葉腰止まんない……これ気持ちいいねえ♡」

四葉「やめて一花っ……また出ちゃうっ……」

一花「私もそろそろやばいっ……イキそうっ♡」

四葉「やばっ……出るっ」ジヨジヨジヨ

一花「えっ?! 四葉のおしっこが私のクリにあたって… イクつつ♡」ビクビクビク

一花「はあはあ…」

四葉「はあはあ…」

一花「ああ… 四葉、その… ごめん…」

四葉「うん、私も気持ちよくて… 最後の方はノリノリになっちゃった…」

一花「また今度してくれる?」

四葉「えへへ、いいよっ」

一花「じゃあ今日は一緒に寝ようか…」

四葉「うんっ…」

翌日

二乃「なに二人で一緒に寝てたの?」

一花「昨日四葉が怖い夢見たとか言って一緒に寝よって聞かないから…」

四葉「あはは…」

五月「まったく、四葉はまだ子供ですわね」

二乃「あんた… この前私とホラー映画見た後夜一緒に寝てほしいって半泣きだった

じゃない」

五月「ああ! それは言わない約束で!」

四葉「えへへっ」ギユツ